

当院では、下記の臨床研究を実施しています。研究概要は以下のとおりです。

【研究課題名】

炎症性腸疾患における術前炎症関連因子と術後鎮痛薬使用量の関係を検討する後ろ向き観察研究

【目的】

炎症性腸疾患は時に外科治療を必要とすることがありますが、その際に必要となる鎮痛薬の量は、他の消化管手術と比べて多くなるといった報告があります。その理由として、炎症の存在が鎮痛薬の効果を減弱させたり、痛覚過敏を生じたりするといったことが示唆されています。そのため、本研究では炎症を含めた術前の状態と、実際に術中・術後に使用した鎮痛薬の量などを調査し、術後に必要な鎮痛薬の量を事前に推測するための因子を明らかにすることを目的として行います。

【対象】

クローン病または潰瘍性大腸炎に対し手術を行い、術後鎮痛として患者自己調節鎮痛法によるフェンタニル静脈内投与を受けた方

【方法】

過去の診療記録から当院研究担当医師が情報を収集し、匿名化された状態でデータベース化します。データの解析は横浜市立大学医学部統計学教室の協力のもと研究実施責任者が解析し、学会および学術論文として発表・公表予定です。

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は匿名化するため、氏名などの特定の個人を識別できるような情報が外部に漏れることはありません。

【利用する試料・情報】

診療記録（年齢、性別、身長、体重、既往歴、手術前の病態、手術前の血液検査結果、治療状況、手術日、手術情報、麻酔情報、有害事象、鎮痛薬の使用状況、過去の手術の有無等）

【研究期間】

倫理委員会の承認が得られてから 2019年3月31日まで

【研究組織】

研究施設：横浜市立市民病院 統計解析：横浜市立大学医学部臨床統計学教室

【研究代表者】

研究実施責任者

坪井 さやか（横浜市立市民病院 麻酔科、横浜市立大学大学院 臨床統計学）

研究事務局

伊奈川 岳（横浜市立市民病院 麻酔科）

坪井 さやか（横浜市立市民病院 麻酔科、横浜市立大学大学院 臨床統計学）

【相談窓口】

横浜市立市民病院 麻酔科

住所 〒240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56

電話 045-331-1961（病院代表）

この研究の対象となる方またはその代理の方で本研究への参加を希望されない方は、上記の相談窓口へお申し出ください。その場合でも、対象となる方に不利益が生じることはありません。また、この研究の対象となる方またはその代理の方は、本研究の詳細（研究計画書及び研究方法に関する資料）を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手・閲覧することができますので、ご希望の方はお申し出ください。